

内閣総理大臣 殿
厚生労働大臣 殿
財務大臣 殿
国会議員 各位

返信 FAX : 078-393-1802

すべての医療機関を守るため 診療報酬の大幅引き上げを求める医師・歯科医師要請署名

長年の低医療費政策の下で診療報酬のマイナス改定が繰り返され、疲弊していた医療現場は、コロナ禍に直面し、さらに厳しい状況に晒されています。加えて、2022年の物価は「前年比3%上昇」「41年ぶりの伸び」と報じられ、2023年も上昇し続けています。感染症対策等による経費増、医療材料をはじめとするあらゆる物品コストの上昇で、値上がり分を価格転嫁できない保険医療機関は、非常に厳しい経営を強いられています。

また、診療報酬が低く据え置かれている現状では、物価高騰に見合った賃金の引き上げは到底不可能であり、医療現場の人手不足、労働環境の悪化に拍車をかけています。

国民皆保険制度の下、公的医療を提供する医療機関の経営を守り、国民が安全・安心の医療を受けられる体制を維持することは国の責務です。

医療提供体制を物的・人的双方の面で確保するためには、初・再診料や入院基本料等の基本診療料を中心に、診療報酬を大幅に引き上げることが必要です。

また、物価高騰は国民生活を困窮させ、高すぎる患者窓口負担によって受診抑制を招いています。必要な医療が受けられるよう、患者窓口負担を軽減すべきです。

私たち医師・歯科医師は、以下の事項を要望いたします。

記

- 一 基本診療料を中心に、診療報酬を大幅に引き上げること
- 一 国民の健康を守るため、患者窓口負担を軽減すること

以上

私の一言

住所：
医療機関名：
氏名：

兵庫県保険医協会 神戸支部ニュース

370号

2023年11月25日付

発行 兵庫県保険医協会神戸支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

第44回総会・記念講演 感想文

人工冬眠の発想と医療における応用



人工冬眠は幅広い治療で実践できる可能性がある」と講演された砂川玄志郎先生(右)

神戸支部は、10月21日に協会会議室とオンラインで第44回総会・記念講演「人工冬眠と医療分野での可能性」を開催し、21人が参加。議事では2022年度活動のまとめと23年度方針を承認し、評議員(医科)を選出した。記念講演は理化学研究所生命機能科学研究センター冬眠生物学研究チーム・チームリーダーの砂川玄志郎先生が講師を務めた。林宏明先生の感想を紹介する。
(2面に選出された評議員、3面に2023年度活動方針を掲載)

砂川玄志郎先生に「人工冬眠と医療分野の可能性」のテーマでご講演を頂きました。人工冬眠という聞きなれない単語、それをさらに医療へという夢いっぱいの思いを拝聴できました。2004年にNatureに掲載されたドイツの研究者から霊長類が「冬眠」することを確認した最初の論文をみたのがきっかけでヒトに再現できたら役に立つと瞬時に思ったと研究のきっかけをお聞きしました。

(2面に続く)

(1面のつづき)

人工冬眠の技術が確立すれば、手術中の臓器のダメージ防止、急病やけがなどで救急搬送する際、治療開始までの時間稼ぎにも活用できます。冬眠によってがんの成長速度を抑えることができれば、じっくり治療できる可能性があります。再生医療においても、現在は保存が難しい人工臓器を冬眠状態で保存できるようになれば、移植が必要になった際、迅速に対処できます。

日常診療では慌ただしく処方をして早期治療の説明を繰り返している頭からすると真逆の発想です。冬眠が普及する時代は来るでしょうか。

【中央区 林 宏明】

**第44回支部総会で選出された評議員
(任期：2023年10月～2025年9月)**

評議員

- (東灘区) 村上 正治・伊賀 文彦・大槻 智子
- (灘区) 小谷 圭・宮崎都志幸
- (中央区) 林 重伸・加茂 統良・鷲尾 隆太・林 宏明
- (兵庫区) 小紫 由利・西松 央一
- (北区) 大石麻利子・細川 巖
- (長田区) 上田 耕蔵・松岡 泰夫
- (垂水区) 佐々木 徹・高橋知三郎・三村 純(新)
- (西区) 上山 幸治・中村 宏臣

予備評議員

- (東灘区) 山中 昭文
- (灘区) 住友 直幹・山中 忍
- (中央区) 松尾 玲子
- (長田区) 江原 重幸・木村 彰宏

**診療報酬の大幅引き上げを求める
医師・歯科医師署名にご協力ください！
国会および厚労省・財務省交渉で提出します**

4面にご署名(ゴム印でも結構です)いただき、FAXにてご返信をお願い致します。

署名はオンラインでも可能です。オンラインでご協力いただける先生は右のQRコードから署名サイトにアクセスし、必要事項をご記入ください。

入力1分以内に終わります。



「初心者のための保険請求事務講習会」にスタッフら111人来場

「あいまいだった請求実務よくわかった」



加茂支部幹事(右)が保険請求の基礎から具体的事例まで分かりやすく解説した

協会は10月15日に保険請求事務講習会を協会会議室とウェブ配信の併用で開催。あわせて医療機関スタッフら111人が受講した。加茂統良神戸支部幹事(中央区・加茂皮フ科医院院長)が講師を務めた。

加茂先生は、協会発行『保険請求の要点 2023年度改定版』をテキストに、医療保険の基礎知識や療養担当規則の解説、診療報酬点数、カルテやレセプトについて、具体的な算定事例や注意点を交えながら説明。実際の診療内容に基づく点数・窓口負担集計とレセプト作成例を解説した。

参加者からは、「医療事務の仕事にブランクがあり、曖昧な状態で仕事をしていた部分があったので、今回の講習会で、大変、勉強になりました」「限られた時間の中で広範囲の説明が聞けてよかったです」「会計時に診療報酬内容チェック、算定の疑問が解消されました」など好評を得た。

＜神戸支部 2023年度活動方針＞

- 1、新型コロナ感染拡大のなか、オンライン配信も活用しながら、学術研究会、医院経営研究会など会員の要求にそった研究会、事務講習会や接遇研修会など職員対象の研修会の開催に努める。
- 2、新規開業医交流会の開催などを通じ、新規開業医を中心に未入会者への案内を強め組織強化に努める。また、病院訪問を積極的に行い病院・勤務医の協会活動への参加をすすめる。
- 3、支部活動の活性化をはかり、幹事会への参加を広げる取り組みを強める。
- 4、健康と医療について語り合う会への講師派遣などに積極的に協力する。
- 5、支部ニュースは、インタビューや投稿など会員を主体とした記事作りをすすめ、定期発行に努める。
- 6、震災復興対策では、震災復興長田の会など地域の運動に参加し共同をすすめる。
- 7、各区の社保協など、医療や福祉で共闘する団体への参加協力をすすめる。
- 8、保険証廃止や地域の病院の統廃合問題、国保、介護保険など地域医療にかかわる重要な問題では、情報収集や行政への働きかけなどをすすめる。
- 9、神戸市政問題での運動に参加、協力する。「神戸・市民要求を実現する会」「市民目線で神戸市政を考える懇談会」に参加し、神戸市に対する要求実現運動での共同に努める。